

2016.3.11 (晴れ) 68名

## 自然ウォッチングの記録

●鳥 ヒヨドリ、ハソボリガラス、ハシブトガラス、ジユウカラ、ヤマガラ、メジロ、エナガ、コケラ、ウグイス、ツグミ、シロハラ、コジュケイ、アオジ、ジョウビタキ、キンクロハジロ、マガモ、オシドリ、カイツブリ、アオサギ、カ

ワウ

●樹の花 アセビ、マンサク、トサミズキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ウメ、サンシュユ、アオモジ、クロモジ、シキミ、キフシ、ウグイスカグラ、ヒラギナンテン

●草の花 タネツケバナ、ハコベ、コハコベ、オオイヌノフグリ、ニホンタンポポ、フキ、ハルリントウ、シュラン

●昆虫 テングチョウ、ルリタテハ、ヒラタアブ



マンサク

●他 カナヘビ、ウヅキコモリガモ



シキミ

## ウォッチングの中から

比較的気温の低い日となりましたが、よく晴れて真っ青な空にマンサクが鮮やかです。野鳥たちも、ウグイスの「ホーホケキョ」、コジュケイの「チョットコイ」、ヤマガラの「ツヅーパー」など元気に恋のさえずりを始め、春本番間近です。

越冬していたテングチョウもあちこちに現れました。朝のうちに見た個体は太陽に羽を向けて温まっていたが、気温が上がった昼近くの二頭は激しくもつれ合うように飛び回っていました。雄雌なのかオス同士の争いなのか、いずれにしても恋が絡んでいるのでしょう。



テングチョウ

## なるほど植物園

## ロゼット植物

草本植物のデザインに「ロゼット」と呼ばれるものがあります。茎は伸ばさずに地ぎわから葉を放射状に広げたもので、公園や道ばたなどでいくらでも見られます。語源は“薔薇の文様”なのだそうす。

タンポポ、オオバコ、モウセンゴケなどは、花は高く伸びますが本体は一生ロゼットなので真正ロゼット植物と呼ばれます。対してヒメジョオン、スイバなどは冬だけの姿で、春には茎を伸ばすので季節性ロゼット植物です。

さて、ロゼットになる理由については多くの文献で、「踏みつけに耐えるよう適応した」とか「寒風を避けて地熱を得ながら太陽光を浴びる知恵」と、まるで植物が上に伸びることを“がまん”をしているような記述をしています。しかし、本当の理由は違うのではと少しひねくれて考えてみましょう。

そもそもなぜ植物は上に伸びるのでしょうか。もちろん日照を得やすくするためですが、太古の植物はコケのように地面に張り付いて、二次元の世界だけで領土争いをしていたはずで、その中から茎を強化して高くなったものが回りの日照権を奪い始め、ついには高さを競い合う仁義なき戦いにエスカレートしてしまったのです。

とすると競争相手さえいなければ、「踏まれれば折れてしまう茎なんぞコストまでかけて伸ばしたくはない」というのが植物の本音でしょう。そんな思いを叶えてくれるのは、極端なやせ地や人が踏みつける広場、また寒い冬など植物が生育しにくい環境になります。ロゼットたちはそこで、じっと耐えつつも一方では平穏にくつろいでいるはずなのです。(高谷)



この情報紙のメール配信サービス(無料)ご希望の方は HP (<http://www.aichishinrin.jp/>) の「お問い合わせ」から「コン森通信希望」と記して送信してください。

発行 2016. 3.12  
愛知県森林公園指定管理者 ウッドフレンズグループ  
共同 株式会社ウッドフレンズ/樹建光社  
0561-53-1551

「自然ウォッチング」第2(金)9:30～ 「道草ウォーキング」第3(水)10:00～ 「野の花めぐり」第4(水)10:00～  
「コンペイトウの森通信」の名称は、シラタマホシクサの別名コンペイトウグサから採用しました。